

「春を伝える」(二年第一単元) | 導入単元の生かし方

新しい国語の教材化を考える会

本単元は、導入単元として位置づけられ、春という季節感をとらえると同時に「春」を話題に想像を広げ、新しい出会いへと踏み出そうとする態度を育てることをねらいとしている。

もう二年生とはいえ、生徒たちはお互いを知っているようで、相手がどんなふうに物事を考えるのかなど知らないことも多い。そこで、自己紹介を兼ねて、「自分の『春』を伝え合おう」という話題で、スピーチの学習を計画した。広く話材を求め、自分らしさのあふれる話を披露することをねらいとした。「春」という言葉からイメージを膨らませ、印象的な「春」のシーンを表現する言語活動は、一人一人の個性を知り合うことができ、新しい学級の仲間とのコミュニケーションを深めるものとして価値がある。スピーチを通して、自分の考えを友達に伝えたり、友達の意見を聞いたりすることで、新たな出会いと互いに「話すこと・聞くこと」の学習を大切にする授業の

雰囲気作りを目ざしたいと考えた。スピーチに際しては、五つの言語意識(目的意識・相手意識・場面意識・方法意識・評価意識)を明らかにさせ、適切に表現することを心がけさせる。そうすることで、「話す・聞く」力が向上し、同時に「伝え合つ力」は高まっていくであろう。

1 目的・相手意識をもたせるために

二年生になり、新学期のスタートにおいて、学級の仲間どうしがお互いのことをよく知り合つたための、自己紹介を兼ねたスピーチであることを知らせた。そこで、学級のみんなに自分らしさを印象つけることができるような話材選びを心がけさせた。たとえ同じ話材であっても中身は一人一人違うわけであるから、聞き手はどんな話が出てくるか楽しみにして話し手に注目するであろう。そのため、その期待にこたえることができるように、主題を明確にしたスピーチができるように話の工夫をさせた。

2 場面・方法意識をもたせるために

まず、話材の選定については、「春」という言葉から連想するものをワークシートに書き出させた後、ジャンルごとに自由に発表させることで、「春」への思いを膨らませ、もっとも伝えたい自分の「春」を決定させた。

《ワークシート書き込み例》

春を見つけよう

① 「春」という言葉から連想するものを書こう。

自然 ↓ (桜、チューリップ、たんぽぽ、はる、蝶、つばき)

行事 ↓ (入学式、卒業式、お花見、遠足、春休み、合宿)

俳句や詩歌、絵画など ↓ (春のうた、お花見、はる)

その他 ↓ (新緑、スタート)

春を見つけよう

① 「春」という言葉から連想するものを書こう。

自然 ↓ (桜、チューリップ、たんぽぽ、はる、蝶、つばき)

行事 ↓ (入学式、卒業式、お花見、遠足、春休み、合宿)

俳句や詩歌、絵画など ↓ (春のうた、お花見、はる)

その他 ↓ (新緑、スタート)

《挙げられた話材例》

「春」という言葉から連想するもの

自然 ↓ 桜、菜の花、チューリップ、タンポポ、土筆、ふきのとう、すみれ、うぐいす、れんげ、蝶、蛙、春風

行事 ↓ 卒業式、合格発表、入学式、ひな祭り、合唱祭、春休み、花見、遠足

俳句や詩歌など ↓ 「春よ、来い」、「春に」、「山路来て何やらゆかしすみれ草」、「石走る垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりにけるかも」、「春の季語」、「春」(春のうららの隅田川)、「さくら」(さくらさくら弥生の空は)

その他 ↓ ヴィジュアルディの「四季」より「春」、出発、新たなスタート、新しい命

その結果、さまざまな事象と関係づけられた自分の思いが十分に伝えられる中身のある話材が選定できていた。また、選定した話材について「春」のカード(教科書十七ページ)を書かせて掲示し、教室に「春のコーナー」を作った。そうすることで、「春」のカードを通して新しい

学級の仲間との「コミュニケーションを図るための「場」づくりができ、授業の雰囲気作りにも役立てることができた。そのようにして、「自己紹介スピーチ大会」への生徒一人一人の意欲は高められていった。

《「春」のカード記入例》

土手に芽吹く小さな命。
土の筆で描く大きな春。

大きくきれいに花を咲かせ、みんなに春を伝えていく。

れんげ
一面に咲いたれんげは
華やかで春まのものです。



(春のコーナー)

《ジャンル別「春」のカード掲示例》

スピーチ原稿の段階で、どのように書きまとめたらいいかとまどっている生徒には、内容形式の文例を示し、参考にさせた。それは、次のようなものである。

私が、思い浮かべたものの中で一番皆さんに伝えたいのは、です。なぜ、それを伝えたいかという、だからです。私にとって春とは、季節です。

《生徒の文例》

私が思い浮かべたものの中で一番皆さんに伝えたいのは、去年の入学式に見た桜です。なぜ伝えたいかというと、新しい制服で胸に入り、がんばるぞと思いながら、桜が桜から下す春は、決意を新たにすると季節です。

わたしは思い浮かべたものの中で一番皆さんに伝えたいのは、春です。なぜ、それを伝えたいかというと、春は新しい命が誕生する、希望にあふれた季節です。以上で、発表を終わります。

次に、スピーチの実際までの学習の流れとして、構想メモ→スピーチ原稿→スピーチメモの順でワークシートを使用して、話の内容を構成・展開させた。「はじめ・なか・おわり」で話の組み立てをさせ、「おわり」の部分には、話材から導き出される主題(自分にとって春とはどんな季節であるか)をスピーチのまとめとして位置づけさせた。

《スピーチ構想メモ記入例》

スピーチ構想メモ	
① 話したいこと (主題)	
桜は、私を新鮮な気持ちにさせてくれる。	
② 話の組み立て	
はじめ	「春」として思い浮かぶもの
なか	桜を見て思う気持ちや桜に関する思い出
おわり	私にとっての春

《スピーチ原稿例》

みなさんは土筆をと、たことはありますか。ぼくが思い浮かべたことの中で、一番みなさんに伝えたいのは、小さいながらもたくましく生きる土筆です。

「土手に芽吹く小さな命。」

土の筆で描く大きな春。

ぼくは、「土筆」という漢字を、「土の筆」と解釈し、小さな土筆がその筆で大きな春を描くという意味でそのように表しました。

なぜそれを伝えたいかというと、土手に芽吹く土筆を見て、「春」の喜びを感じることができる。土筆にはとても大きな力があるのです。土筆を見ると、春がやってきました。土筆のように大きな夢をも、頑張ろう、と思います。

春とは、新しい命が誕生する、希望にあふれた季節です。

以上で、発表を終わります。

《スピーチメモ例》

スピーチメモ			
おのれ	なか	はじめ	おわりに
感謝	具体的な事例	結ぶ事の結び	感謝
／	／	／	／
おのれ：お世話になりました。ありがとうございました。 なか：お世話になりました。ありがとうございました。 はじめ：お世話になりました。ありがとうございました。 おわりに：お世話になりました。ありがとうございました。			

スピーチメモ			
おのれ	なか	はじめ	おわりに
感謝	具体的な事例	結ぶ事の結び	感謝
10分	4分	1分	1分
おのれ：お世話になりました。ありがとうございました。 なか：お世話になりました。ありがとうございました。 はじめ：お世話になりました。ありがとうございました。 おわりに：お世話になりました。ありがとうございました。			

《スピーチの実際の様子》



スピーチ題を板書し、心を落ち着かせてから



少し緊張気味で、照れながら



自分の思いを堂々と語って



スピーチ原稿から目が離せない



スピーチメモをチラッと見て



スピーチメモも見ないで

スピーチ大会本番前に、グループでスピーチの練習をさせ、改善点を指摘し合わせた。その際、原稿の手直しをする生徒もいて、スピーチ内容をよりわかりやすいものとしていたため、本番では、生徒一人一人が自信をもってスピーチすることができていた。

次に示すのは、一学級(四十一人)のスピーチ題である。

- 新しい友達 ○いろいろな気持ち ○花と虫
- 新しいスタート ○別れと出会い ○土筆取り
- 自然 ○新学期 ○努力は実る ○恋 ○自然
- 卒業式と入学式 ○ドキドキ ○桜 ○大相撲
- スタート ○つくし・たんぽぽ・ももの花
- 変化 ○大人へ近づく ○受験 ○短歌 ○花
- 巣立ち ○ゴールデンウィーク ○大切な時間
- さくら ○進級 ○雪解け ○花見 ○春休み
- 卒業式・入学式 ○生き物の関わり ○入学式
- 春の生き物 ○体育祭 ○春雨 ○桜 ○土筆
- 新しい ○つくし ○新しいスタート

スピーチを始める前、心を落ち着かせるためにスピーチ題を板書させた。板書の文字からも、その人となり表現されて、ほほえましい雰囲気作りとなった。

3 評価意識をもたせるために

自分のスピーチがどうであったかを振り返らせるために、相互評価をさせた。一人のスピーチが終わることに、相互評価表に記入させ、一二人の質問や感想を交流させる場の時間を取った。そうすることで、生徒一人一人のスピーチを共感し合い、互いに認め合う場が構成され、「話す・聞く」力が自然と高まっていった。その後生徒は四十人分の評価表を手元に置いての自己評価を行った。

《相互評価表の記入例》

《「ひとこと」例》

相互評価表			
評価者	話し手	聞き手	評価
話し手	話した内容が面白かった。	話した内容が面白かった。	5
聞き手	話した内容が面白かった。	話した内容が面白かった。	5

相互評価表			
評価者	話し手	聞き手	評価
話し手	話した内容が面白かった。	話した内容が面白かった。	5
聞き手	話した内容が面白かった。	話した内容が面白かった。	5

「春」という言葉から想像を膨らませ、「自分の『春』を伝えよう」のテーマでのスピーチの学習は、新しい学級の仲間に、一人一人の思いを届けていた。